

対象年度		令和 2年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート												
事務事業名		畜産業振興事業						予算事業名		畜産業振興事業費						
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令							
				06	01	05	1101	経常経費								
総合計画体系		3歴史と自然を育む活力あるまちづくり(産業)							事業の区分		主要事業					
		3-1元気あふれる農業の振興（農業）														
		①活力ある産地の育成							担当課係等		農政課					
		2畜産経営の安定化									農業係					
事業期間		継続（昭和58年度～ 年度）														
【めざす姿（意図・どのような状態になるのか）】								【事業開始のきっかけや他市の状況など】								
酪農家間の連携を強化し、消費者との交流を深め、酪農の振興を図る。								牛乳等の乳製品の消費が減少してきているため、酪農の普及を促していきたい。								
ワクチンの予防接種や疾病検査により安全な畜産物を生産し、殺虫剤を散布することにより環境対策を行い、畜産経営の安定化を図る。								畜産農家の環境対策や感染症への対策に係る経費が増加してきているため。								
【手段（事業内容・どのようなことを行うのか）】								【対象（だれに対して・何に対して行うのか）】								
酪農家団体の牛乳消費拡大事業や視察研修会に対して助成を行う。								結城市家畜畜産物衛生指導協会								
養豚農家及び牛飼養農家が行うワクチンの予防接種に対して助成を行う。								結城市酪農振興協議会								
乳用牛の疾病検査に対して助成を行う。								酪農・養豚農家								
畜舎及び堆肥舎に散布する殺虫剤の購入に対して助成を行う。								【事業をとりまく環境の変化】								
								畜産農家は飼料高騰、家畜伝染病の発生増加によるワクチン接種及び消毒薬等の衛生費増加等により、非常に厳しい経営状況にある。そのため畜産農家の支援の要望は多いので、それに応える必要があると思われる。								
【令和 2年度 事業内容】				【令和 3年度 事業内容】				【令和 4年度 事業内容】								
酪農家の連携強化や、乳製品の消費拡大のための事業に対して助成を行う。				酪農家の連携強化や、乳製品の消費拡大のための事業に対して助成を行う。				酪農家の連携強化や、乳製品の消費拡大のための事業に対して助成を行う。								
感染症に対するワクチンの予防接種に対して助成を行う。				感染症に対するワクチンの予防接種に対して助成を行う。				感染症に対するワクチンの予防接種に対して助成を行う。								
環境衛生のために、殺虫剤購入に対する助成を行う。				環境衛生のために、殺虫剤購入に対する助成を行う。				環境衛生のために、殺虫剤購入に対する助成を行う。								
■事業費																
				H30年度		R01年度										
財源内訳	国	庫	支	出	金	0	0									
	県		支	出	金	0	0									
	地		方		債	0	0									
	そ		の		他	0	0									
	一		般	財	源	882	1,072									
歳入計（千円）				882		1,072										
歳出内訳	節（番号＋名称）				金額（千円）		金額（千円）									
	19 負担金補助及び交付金				882		1,072									
歳出計（千円）（A）				882		1,072										
伸び率（％）						21.54										
備考	総合計画 95 ページ 予算書 120 ページ															

平成30年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		H30年度	R01年度	R02年度
活動 指標	豚オーエスキー病予防接種実施農家戸数	戸	目標	10.00	12.00	12.00
			実績	10.00	0.00	0.00
	殺虫剤等購入戸数	件	目標	25.00	25.00	25.00
			実績	15.00	0.00	0.00
成果 指標	オーエスキー病及びアカバネ病陽性戸数	戸	目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
	害虫苦情件数	件	目標	4.00	3.00	2.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	食の安全に対する消費者ニーズの高まりにより高品質の畜産物が求められており、また担い手の減少している生産者への支援は不可欠である状況の中、畜産振興を図るために必要である。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	生産者の意欲を高め、畜産物の品質向上により生産者の経営の安定化を図ることができる。飼養上の衛生管理の指導、法的な問題などは行政が行うべき事業であるため、妥当である。
	手段の妥当性	A 妥当である	補助事業などは市が関与する方法が一般的であり、特に問題はない。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらも言えない	畜産農家は飼料費高騰や衛生費増加により経営が厳しいため、補助事業等の支援が必要であるが、豚オーエスキー病ワクチン予防接種の補助事業等、利用者が以前と比べ減少している事業もあるため、コストの割り振りを見直していく必要がある。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	受益者である畜産農家に対して事業を周知しているため、偏りはない。
有効性	成果向上の余地	B どちらも言えない	畜産環境対策事業は成果の向上があるが、家畜防疫事業の中で、豚オーエスキー病は清浄化した農家が増え、ワクチン接種頭数は減少している。家畜防疫事業の最終目標は、ワクチン接種を中止することである。
進捗度	事業の進捗	A 順調である	順調に進んでいる。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
畜産事業においては、様々な疫病の発生に対し都度取り組まなければならない、ワクチン接種を行う家畜防疫事業、畜舎等の環境を整備する畜産環境対策事業等は継続すると同時に、事業者の高齢化問題、担い手不足問題に取り組む為に次の事業に展開していくことも必要であると考えられる。目下の問題だけでなく、将来を見据えた経営体制づくりが必要である。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
生産者に対し事業の内容だけでなく目的を周知し、個体や畜産環境の改良への意識を向上を図る。家畜防疫事業に関しては、オーエスキー病を完全に清浄化し最終的にはワクチンの接種を中止し生産者の経営安定化のための次なる事業のための予算とする。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了	
改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 畜産業の経営安定と振興を図り、家畜伝染疾病の発生及び蔓延を防止するため、指定獣医師の平常的な防疫指導が重要であり、家畜伝染病疾病発生状況や畜舎環境対策を常に検証しながら事業を行っていく必要がある。	
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了	
企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。	